

特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター・公益財団法人北陸体力科学研究所への視察について(報告)

【目的】

日本の中でも著名な健康増進施設および関連の医療機関である上記2施設を来訪し、施設見学するとともに、担当者に現在の状況や課題についてヒアリングを行う。

【日時】

2018年2月27日(火)

【場所】

特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター  
公益財団法人北陸体力科学研究所・スポーツコミュニティダイナミック

【視察者】

大学院健康マネジメント研究科・スポーツ医学研究センター准教授 小熊祐子  
大学院健康マネジメント研究科助教(有期) 齋藤義信

【視察先担当者】

やわたメディカルセンター 勝木達夫院長  
北陸体力科学研究所 谷口和英業務部長、三井外喜和エキスパート、松儀怜主任

【視察内容】

1. やわたメディカルセンター見学(勝木院長)  
病棟、心臓リハビリテーション、通所リハビリテーションおよび通所介護サービス
2. スポーツコミュニティダイナミック見学(三井エキスパート、松儀主任)  
プール、トレーニングルーム、室内ウォーキングコース、体力測定室
3. 北陸体力科学研究所事業説明と健康増進施設の現状および課題に関する意見交換(三井エキスパート、松儀主任)
  - 来館者1日平均 690人(年々増加している)  
有患者(H27・28年度メディカルチェック結果):全体の 59% メタボ 17% ロコモ(ロコモ度 2以上) 3-16%  
メディカルチェック受診率の低下⇒1年前に簡略化  
(プログラム開始するまで2週間程度⇒1日(無料) 運動負荷試験、採血、医師の運動処方を削除)
  - 会員の健康状態に応じたサービス体系に整理
  - 運動療法会員(+6000円):かかりつけ医から運動処方が発行されている人、運動負荷試験は必要があ

る人。健康運動指導士、理学療法士、管理栄養士、保健師が連携

運動処方せん作成マニュアルに準じて1年に1回作成。月に1回カンファレンス、プログラム(運動療法実施計画書)更新、最低月に1回指導、3ヵ月に1回問診・体力測定などの定期評価の実施とかかりつけ医に情報提供書を郵送

- 指定運動療法施設:2年前に近隣のクリニックを回って、説明  
医療費控除を受けられるのは、4週に1回以上かかりつけ医の診察・指導が必要だが、4週に1回の診察は必要ない人が多い。15-20名 高齢者がほとんど
  - ダイナミック会員全体で中断率は3-6ヵ月で20%程度。
  - 他事業・プログラム  
アクティブ・エイジングスクール(30名):少人数(8名くらい)での集団トレーニング 1回500円・60分  
健康づくり事業:ウォーキングサロン&商店街活性化事業 アーケードウォーキング、運動指導(スミセイ助成)  
小松市認知症予防検証事業(はつらつ脳トレ事業): 脳トレDVD制作 いきいきサロン約180か所:ボランティアが運営 介入効果の検証(1年後、介入・対照でそれほど変わらなかった、デザインなど課題)  
職員の保健行動促進事業(企業向け): エアロビックポイント月間 2-5名のチームで インセンティブも(ダイナミックの強みを生かして)  
重症化予防:個別 勝木会、小松製作所(コマツ)(腰痛、睡眠障害) 簡単なことからでも運動に触れてもらえるように 健康経営も視野に  
スポーツ医科学関連事業: 測定、指導、講話 子供(県体力測定事業 8万人 報告書分析評価)、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設活用事業 中高生、実業団(カヌー)、プロ 県からの委託事業 開設以来30年
  - データの電子化について  
会員情報とメディカルチェックデータ別のシステム、経時変化も追える。健康増進施設コホートの可能性:施設としてエビデンス提供が十分でないので連携の可能性もあり。
  - 職員(運動指導者)の教育について:研修会を週に1回開催、基礎知識と誰にも負けない自分の強みを持つよう指導
- その他、ふじさわプラス・テン研究概要説明(齋藤)

#### 【施設および意見交換資料】

添付資料参照

【写真】



やわたメディカルセンター外観



1m 間隔の床タイル



心臓リハビリテーション



和温療法の乾式サウナ



北陸体力科学研究所・スポーツコミュニティダイナミック外観



プール



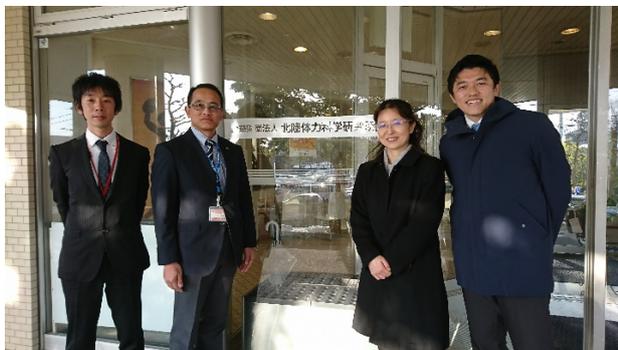
スタッフ紹介ボード



トレーニングルーム



トレーニングフロア



左から:松儀主任、三井エキスパート、小熊、齋藤

以上